

AIMaP 研究集会等実施報告書

(Part 1/4) 名称・重点化連携分野・キーワード等

項目	内容
名称	数理科学オープンイノベーションセッション
採択番号	2021A002
重点化連携分野	生命科学・医療分野におけるモデリングやデータ利活用技術 (数理科学連携研究センターにおける医学との連携研究)
キーワード	数学者と企業人の対話、対話のファシリテート
主催機関	東北大学数理科学連携研究センター 東北大学 AIMR 数理科学オープンイノベーションセンター
運営責任者	水藤 寛
開催日時(開始)	2021/12/08 18:30
開催日時(終了)	2021 /12/22 21:00
開催場所	■オンライン ・□オンサイト(会場:)

(Part 2/4) 最終プログラム・参加者数

項目	内容	
最終 プログラム	Step1: イントロダクション 18:30-18:45 (15 分) 趣旨説明・自己紹介	
	Step2: インスピレーショントーク 18:45-19:45 (60 分) 数学者からのインプット 企業参加者からの自己紹介	
	Step3: 対話 1 研究内容の理解 19:45-20:15 (30 分) 数学者と企業参加者との対話	
	Step4: 対話 2 課題解決につながる価値の活用方法探索 20:15-20:55 (40 分) 数学者と企業参加者との対話	
	Step5: クロージング 20:55-20:30 (5 分) 気づきの共有	
	参加者数	数学・数理科学:3 人, 諸科学: 00 人, 産業界: 07 人, その他: 03 人

(Part 3/4) 論点・現状・今後の展開

[様式 1.3.]

数学・数理科学の有効性を知っていただくための訴求活動としてどういった課題に取り組み、どういった効果が得られたかに焦点を当てながらご記入ください。

項目	内容
当日の論点	企業課題 数学の価値 企業側から見た数学の活用方法
研究の現状と課題(既にできていること、できていないことの切り分け)	(企業参加者の声) <ul style="list-style-type: none"> • 数学的なものの考え方が重要と言われて久しい中、数学者の側から見解を聞けたが初めてであり、とても新鮮だった。 • 数学者と産業界の方々が、オンラインで一堂に会して対話するという、前回同様あまり前例の無い取り組みだったが、数学者と産業界の方々いずれも3回連続で参加することにより、お互いのことを理解し、何を話しても良いという心理的安全性の高い場となっていた。
新たに明らかになった課題	(企業参加者の声) <ul style="list-style-type: none"> • テーマとして実社会と絡めた部分を増やしてもらえるともう少し議論が広がると感じた。例えば、社会の複雑系をわかりやすくしてくれる数学の理論の適用事例や数学と哲学や歴史との関係など。 • より交流を深めるためにオフラインでの開催を期待したい。 • 数学を極めてもなお数学に惑う、という人間臭さに触れたことが一番の体験。
今後解決すべきこと、今後の展開・フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> • 今回は1回目、2回目が純粋数学、3回目が応用数学だったため、日常的に数学に接していない産業界からの参加者の数学に対する理解が、解を重ねるごとに徐々に深まっていく様子だったが、馴染みやすそうな応用数学や実社会に絡めたテーマを前半にすることでその後の数学に対する理解が順調に進むか検討したい。 • 産業界から、より数学に馴染みのある部門に(情報処理・研究開発など)絞ってお招きすることで、より具体的な企業の課題解決につなげることが可能ではないかと考える。

(Part 4/4) 写真

項目	内容
添付写真 1	 <p>東北大学 産学連携企画 数理科学オープンイノベーションセッション 開催報告書</p>

(20210408ver.)